

し即日より施行せるか其要旨左の如し。

製鐵所外國留學生は農商務大臣の選抜に依り製鐵及之に附帶する事項に關し須要の學術技藝を研究せしむる爲外國に派遣する者とす ▲前項の外國留學生に關しては水産講習所在外研究生規程第二條乃至第七條の規程を準用す 同時に外務省令第二號を以て之れか規定を改正し第一條中支那語の下に「蒙古語」馬來語の下に「波斯語」を加へ第十一條第一項中漢文英文佛文の下に「蒙古語を講習すへき者は蒙古文漢文英文又は佛文」を馬來文英文又は佛文の下に「波斯語を講習すへき者は波斯文英文又は佛文」を加ふ

●製鐵業調査會議(前號の續々)

第十日(五月廿三日)

製鐵業調査會第二特別委員會は廿三日午後一時半より農商務省に開會中村委員長以下委員全部出席製鐵業の種類に關する件に關し各委員提出案につき審議せしかと決定に至らず五時散會せり第二委員會は廿四日更に會合を開き決定案を作製する筈なるか第一委員會の答案(製鐵の原料に關する件)は既に決定し居るを以て第二委員會案の決定を待ち廿五日に總會を開き兩委員會の作製案を正式に決定する筈なり

第十一日(五月廿四日)

製鐵業調査會第二特別委員會は廿四日午後一時半より農商務省に開會出席者は中村委員長以下各委員及農商務省より河野農相上山次官、磯部局長其他にて第二諮問案「製鐵業種類調査に關する事項」に對する各委員よりの提出案に就き引續き協議する處あり愈決定したるを以て廿五日日本會議を開き曩に決定したる第一諮問案製鐵原料の調査及供給に關する事項の答申案と共に付議決定する筈なるか尙第三諮問たる「官民製鐵事業の調和に關する事項」及第四諮問案「製鐵業の發達を促すに必要なる事項」も同日協議すへしと

第十二日(五月廿五日)

製鐵業調査會は廿五日午後一時半より農商務省會議室に於て開會松方、鈴木門野の三氏を除く十七名の委員出席し農商務省より河野農相、上山次官、磯部鐵山局長以下の出席あり河野農相議長席に着き曩に小委員會に於て決定したる「製鐵原料の調査及供給に關する事項」の答申案に就ては高崎委員長より「製鐵業の種類調査に關する事項」の答申案に就ては中村委員長より夫れ々報告あり先づ第一案より討議に入りしか何分にも我國に於ける製鐵原料は釜石其他に於て産出するものもあるも製鐵所の第三期擴張を始めとし將に各方面に勃興せんとする製鐵事業に對し満足なる原料の供給を爲さんとせば内外に亘り慎重なる調査と完全なる手段方法を講せざる可らず要するに製鐵原料の供給は製鐵事業の根本問題にして且つ此問題は刻下の急務なるより勢ひ各委員間に眞面目なる意見種々續出し議論數時間に亘りしも未決の儘六時過散會したるか其内容は内外に對し重要な關係あるを以て一切秘密に附しつゝあり

第十三日(五月廿六日)

製鐵業調査會は前日に引續き廿六日午後一時半より農商務省會議室に於て本會議を開き河野農相缺席の爲め中村委員長議長席に付き第一特別委員會「製鐵原料の調査及供給に關する事項」の結果に就審議する所あり六時散會せるか第一諮問事項は右にて議了したるを以て廿九日午後一時より引續き開會第二特別委員會の報告に就き審議する筈

第十四日(五月廿九日)

製鐵業調査會は二十九日午後一時より農商務省會議室に於て開會原田、門野の兩委員の外各委員出席中村雄次郎氏議長席に着き第二諮問案「製鐵業の種類調査に關する事項」の答申案に就き審議を爲したるも具體的決定を見るに至らず五時散會せるか尙ほ三十日も午後一時より引續き協議を續行すへしと

第十五日(五月三十日)

製鐵業調査會は三十日午後一時より農商務省會議室に於て開會河野農相不在に就き中村雄次郎氏議長席に着き和田、門野、香村、高崎其他各委員の提出に拘はる製鐵業調査及發達の希望若しくは意見を和田委員の手に於て纏めたるものに基き審議する所あり午後五時散會三十一日も引續き午後より開會の筈

第十六日(五月三十一日)

製鐵業調査會は三十一日午後一時半より農商務省會議室に於て開會河野農相

上山次官、町田坪井正副參政官、磯部局長及各委員等出席河野農相議長席につき第三諮問案「官民製鐵事業の調査に關する事項」及第四諮問案「製鐵業の發達を促すに必要なる事項」につき政府當局より説明する處あり了つて第四案につき協議し質問應答並に政府の辯明等あり結局特別委員に附託する事に決し次で第三案に移り之れ又議長指名の特別委員に附託する事とし一先つ當日を以て本會議を打切り六時半散會せるか各特別委員は各案につき答申案を作成し更に本會に附議する筈なりと

第十七日(六月一日)

製鐵調査會第三第四諮問事項及び別項の特別委員會は一日午後一時半より第一回の協議會を開會諮問事項に付協議せり

第三、諮問事項附託特別委員(議席順)

委員長 高崎親章 寺野精一 服部 漸

香村小録 福井菊三郎 依國 一

大河内正敏 和田維四郎 福田馬之助

第四、諮問事項附託特別委員

委員長 中村雄次郎 門野重九郎 原田鎮治

阪田貞一 丸田秀實 井上匡四郎

島安次郎 渡邊 島川文八郎

現在及將來需用さるる鐵鋼を品別調査の件附託特別委員

委員長 高崎親章 香村小録 福井菊三郎

倭國 一 井上匡四郎

第十八日(六月三日)

製鐵業調査會の第四部特別委員會は三日午後一時半より農商務省に開會中村委員長外各委員並に各關係當局者出席し諮問案第四「製鐵業の發達を促すに必要なる事項」に就き種々協議を重ねたり

●製鐵調査進捗 製鐵調査會は客月八日第一回協議會を

開催し農商務省提出諮問事項に對する答申案に付き本會或は特別委員會を開くこと十餘回に及び既に第一第二諮問事項の答案を作成し得るに至りたり、而して殘餘の第三、第四諮問事項並に委員提出の協議案に就ては夫々特別委員會を重ね會議大に進捗したるも八幡製鐵所を視察し實施上に

付き調査講究の要あるに依り、製鐵調査委員は來る十六、七の兩日右製鐵所を視察することに決定したり、尙ほ第四諮問事項及委員提出協議數項附託特別委員會は右視察員歸京後二十三日頃開會する筈なりと云ふ。

●製鐵所實地視察 製鐵業調査會の委員連は實地研究の爲め八幡製鐵所を視察する事となり此程福田馬之助、高崎親章、丸田秀實、香村小録、大河内正敏、井上匡四郎、島安次郎の七氏東京を出發せるが尙磯部鑛山局長も十四日午後四時發の列車にて下向せり。

●X光線で鋼鐵透視 神戸三菱造船所の技師戸波親平氏は數年間英國に於て金屬に關する化學的研究をなし歸來三菱造船所内に金屬其他の化學研究所を設け曩には歐米に於ても其例なき頗る強力なる鋼鐵メタルを發明して專賣權を得其他金屬研究の結果を數次歐米の機關雜誌に發表して世界の採礦冶金界に貢獻する事尠からざりしか今回更にX光線を以て金屬を透視するの研究を試みて之れに成功せり、氏は昨年米國のドクトル、デビー氏か從來絶対に透視する能はずと思惟されたる金屬も之れを強度なるX光線に照らせは透視し得へしと云ふ學説を發表せしに基き種々研究し來りしものにて、工藝製作品に應用し金屬鑄肉の内部に空虚ある製品又は他の不純物を混せる製品は一見之れを識別する事を得るなりといふ、右につき同造船所は專賣權を獲得し之れを凡らゆる金屬工業に應用する筈なるか氏の實驗に依り未だ透視し得られざるものは鉛とプラチナなりと。